

第2回

避難所・避難生活学会

日時：2016年9月9日（金）9:00～17:00

会場：御茶の水「ソラシティカンファレンスセンター」2階テラスルーム
東京都千代田区神田駿河台 4-6 TEL 03-6206-4855

参加費：5000円（学生・大学院生1000円。非会員の方も参加できます）

今年は熊本地震が発生し、予測されたとはいえ厳しい環境の避難所があり、下腿の静脈血栓が多数見つかりました。益城町には約4000台の簡易ベッドが導入されましたが熊本市では数百台程度と少ない状況でした。他方、5月のカナダ・フォートマクマレーの山火事被災地では、避難所に約5000人が避難し、5時間以内に1000台、24時間で3000台の簡易ベッドが準備されました。

災害対応はその国の文化や背景によって違いがありますが、しかしいずれにせよ避難所の環境が被災者に健康被害をもたらさないものでなければなりません。

本学会では、避難所・仮設住宅及び在宅被災者の環境改善や生活再建への支援にとって、どのような仕組みが必要かを模索し、次なる大災害に備えていきたいと考えます。



<プログラム>

9:00 開場、受付

9:10 開会・会長挨拶

新潟大学呼吸循環外科講師 榛沢和彦

9:30 ラウンドテーブルディスカッション1

～避難所・応急仮設住宅の現状：エコノミークラス症候群等の健康被害～

座長：植田信策（石巻市赤十字病院呼吸器外科副部長）

<講演>

東日本大震災後の石巻市における避難所と仮設住宅団地

石巻赤十字病院 植田信策

看護師からみた避難所

訪問ボランティアナースの会キャンパス代表 菅原由美

熊本地震におけるエコノミークラス症候群検診と避難所

熊本市市民病院神経内科 橋本洋一郎

東日本大震災後の岩手三陸沿岸における避難所と仮設住宅

盛岡市立病院神経内科部長 佐々木一裕

11:00 休憩

11:10 **ラウンドテーブルディスカッション2** ～仮設住宅における孤独死その他～

座長：塩崎賢明（立命館大学政策科学部教授）

<講演>

「災害孤独死」とはなにか
東日本大震災応急仮設住宅入居者の生活動向調査結果
在宅被災者の避難生活の現況について
東日本大震災における在宅被災者と被災者支援

追手門学院大学教授 田中正人
岩手県立大学準教授 宇佐美誠史
チーム王冠代表 伊藤健哉
東洋経済新報社企業情報部 岡田広行

12:10 昼食

12:50 **避難所設営・運営におけるキーポイント** 座長：榛沢和彦+水谷嘉浩（Jパックス社長）

<講演>

良好な生活環境の実現を目指した避難所運営ガイドライン
避難所運営、人手は確保できますか？
災害救助法の柔軟運用による生活防災と専門家研修プログラムの必要性
災害救助法の制度改正に向けて

新潟大学危機管理室教授 田村圭子
災害情報学会 中川洋一
弁護士 岡本正
関西大学社会安全学部教授 山崎栄一

14:20 **ラウンドテーブルディスカッション3** ～避難所・応急仮設住宅の今後の改善策1～

座長：根本昌宏（北海道赤十字看護大学教授）・佐々木一裕（盛岡市立病院神経内科教授）

<講演>

平成26年8月20日広島市豪雨災害～被災者健康支援について
熊本地震における熊本市救護班調整本部が抱えた問題点
常総市水害における段ボール製簡易ベッドの導入
熊本地震における政府の段ボール製簡易ベッド及び弾性ストッキングの対応（仮）
段ボール製簡易ベッドの導入と防災協定の現況
欧米の避難所から学ぶこと：米国の地震経験などから

広島市保健部長 臺丸尚子
熊本大学消化器外科 長井洋平
茨城県議会議員 飯田智男
群馬県議会議員 福重たかひろ・衆議院議員 岡本三成
Jパックス社長 水谷嘉浩
聖徳大学社会学部教授 北川慶子

15:40 休憩

15:50 **ラウンドテーブルディスカッション4** ～避難所・応急仮設住宅の今後の改善策2～

座長：北川慶子+宇佐美誠史

<講演>

防災・減災の視点から見た高齢者施設・避難所等の配置
避難所・被災地へのテント導入活動
厳冬期避難所実験結果から考える北日本の避難所
積雪期における災害時の避難所機能確保における課題

佐賀大学教授 大串浩一郎
オープンジャパン理事、元山形県議会議員 草島進一
日本赤十字北海道看護大学教授 根本昌宏
国土技術政策総合研究所 竹谷修一

17:05 閉会

17:30 懇親会（ソラシティービル1階エビスホール、会費3000円）